

令和6年度 藤枝市地域政策研究・創造事業
研究課題名：未来につながる女性と子ども・家族の健康支援

静岡県立大学看護学部・研究科 母性看護学・助産学領域

教 員：教授 太田尚子

准教授 中川有加、永谷実穂

講師 福島恭子

助教 池田美音、高橋明味、長屋和美、大和田裕美

参加学生：大学院助産学課程博士前期課程

片山歩美、藤本弥佳

看護学部4年 藤村真登、渡邊佑晟

1 要約

本研究では、子ども・子育て支援を「女性を中心としたケア women-centered care」「家族を中心としたケア family-centered care」の視点からとらえ、これから親となるひとからミドル・シニア世代まで、女性と子ども・家族に関わるすべてのひとが生涯にわたって健康に生活していくための支援が必要であると考えます。そこで、藤枝市における親となるひとや親子、家族に対する様々な支援の現状に関する調査を行い、母性看護学・助産学領域教員がもつ専門的知見による情報提供の機会、親となるひとや親子、家族が交流する機会を提供し、その効果を検討しました。

2 研究の目的

本研究の目的は、藤枝市における親となるひとや親子、家族に対する様々な支援の現状を明らかにするとともに、専門家による情報提供の機会、親となるひとや親子、家族が交流する機会を提供し、子ども、子育てに優しいまちづくりのために必要な施策について検討することである。

3 研究の内容

(1) 藤枝市における親となるひとや親子、家族に対する支援の現状に関する調査

- 1) 令和3年度～令和5年度の「広報ふじえだ」に掲載されている子ども、子育てに関する講座等を抽出し、対象者および内容別に分類する
- 2) 関係機関へのヒアリングを実施する

(2) 親となるひとや親子、家族を対象とした講座を企画・開催し、その効果を検討する

4 研究の成果

(1) 当初の計画

令和6年6～7月	藤枝市における親となるひとや親子、家族を対象とした支援の現状の調査
令和6年8～9月	情報提供・交流の機会（講座）を企画
令和6年9～11月	対象・内容別に2回程度、親となるひとや親子、家族を対象とした講座を開催
令和6年12月	研究成果のとりまとめ
令和7年1月	研究成果の報告

(2) 実際の内容とその理由

B（一部修正）：6～7月に実施予定であった藤枝市における支援の現状調査を12月まで継続した。

(3) 実績・成果と課題

1) 藤枝市における親となるひとや親子、家族に対する支援の現状に関する調査

令和3～5年度の「広報ふじえだ」に掲載されているこども、子育てに関する講座等を抽出・分類した。子どもの月齢・年齢を限定した講座・イベント等は多くみられるが、父親を対象としたもの、母親の年齢等を限定した講座・イベントは限られていた。令和5年度以降は、男女共同参画・多文化共生課により、これからパパになる人を対象とした「プレパパ講座」が開催されていた。

令和6年10月 男女共同参画・多文化共生課へ父親支援の現状と課題について聞き取りを行った。男性自身が積極的に子育てに参加できるよう、知識・ヒントを得る機会としてプレパパ講座等を開催し、令和5年度は、18組の夫婦(妊婦とその夫)の参加があった。妻に誘われて参加する男性が多く、男性のみで話し合う時間を設けるなど男性が参加しやすいよう工夫しているとのことであった。

令和6年12月 こども課へ子育て支援の現状と課題について聞き取りを行った。子育て支援センター等では、こどもの年齢に合わせた講座・イベントを開催している。同地区・同学年となるこどもの母親同士のつながりを支援することを重視しており、若年や高年など母親の年齢等により対象者を限定した講座・イベントは開催していないとのことであった。

2) 親となるひとや親子、家族を対象とした講座の企画・開催

①子育てパパのおしゃべり交流会の開催

日 時：令和6年9月7日(土)

会 場：藤枝市産学官連携推進センターBiviキャン

参加者数：4名(小学生までの子どもを育てている父親)

参加教員：太田・中川・永谷・福島・池田・高橋・長屋・大和田

参加学生：藤本弥佳(1名)

成果と課題

子育てをしている父親が子育ての悩み・関心事を話し合い、自分らしい子育てについて考えること、子育ての仲間づくりをすることを目的とした交流会を企画・開催した。交流会では、子育ての悩み・関心事に関する話し合いと、包括的性教育に関する情報提供「パパにも知っておいてほしい イマドキの性教育」(講師：助教 長屋和美)を実施した。話し合いでは、子どもの叱り方、しつけ、習い事、妻との協働など様々な話題について、活発な意見交換がなされた。終了後アンケートでは、参加者全員から会への参加が「子育てに役立つものであった」「また参加したい」という回答が得られた。また、「他の参加者の話をもっと聞きたかった」という意見もみられた。本交流会の開催から、子育てをしている父親に対する交流機会や子育てに関する情報提供などの支援の必要性が示唆された。一方で、直前まで参加申込が少なく、広報手段や父親が参加しやすい環境づくりなど、父親支援につなげるための方策が課題である。



図1. 子育ての悩み・関心事に関する話し合い



図2. 包括的性教育に関する情報提供

②アラフォーママの子育て&健康講座の開催

日 時：令和6年11月16日（土）

会 場：藤枝市産学官連携推進センターB i v i キャン

参加者数：6名（妊娠中から子育て中の30～40代の女性）

その他、夫・こども等付き添いの家族6名

参加教員：太田・中川・福島・池田・高橋・大和田

参加学生：片山歩美、藤村真登、渡邊佑晟（3名）

成果と課題

子育てをしている40歳前後の母親（アラフォーママ）が子育ての悩み・関心事を話し合うとともに、心身ともに健やかに子育てをするための知識を得ることを目的とした講座を企画・開催した。講座では、子育ての悩み・関心事に関する話し合い、アラフォーママのこころと身体に関する情報提供「素敵にエイジング」（講師：准教授 中川有加）、アロマサシェ作り、リラックスできるハーブティーの試飲体験を実施した。参加動機は「同年代のママと話したかった」、「女性の健康について学びたかった」が最も多く、話し合いではアラフォーママの子育て・健康に関する活発な意見交換がなされた。終了後アンケートでは、「同年代の親の集まりは中々ないのでとても楽しかった」「支援センターに行っても若いママしかいなくて気後れしてしまう」「自分だけじゃないんだと気が楽になった」との意見がみられた。また、会場内に付き添いのこどもが遊べるスペースを確保し、こどもを見守る教員・学生を配置したことで、こどもから離れ講座に専念することができた様子であった。本講座の開催から、特に高年齢の母親が同年代の母親と交流し、心身の健康に関する情報提供する機会を設けることが、安心して子育てできる環境づくりに寄与する可能性があることが示唆された。引き続き、アラフォーママを対象とした交流・情報提供の機会を設けるとともに、10代等若年の母親を対象とした交流機会提供の必要性についても検討していく必要がある。



図3. アロマサシェを作りながら交流



図4. 付き添いのこどもが遊べるスペース

（4）今後の改善点や対策

「広報ふじえだ」に掲載されているこども、子育てに関する講座等の抽出、男女共同参画・多文化共生課やこども課への聞き取りから、藤枝市における親となるひとや親子、家族に対する支援の現状を明らかにすることができた。この調査をふまえて企画・開催した2講座では、参加者の満足度は高く、妊娠期から子育て期にある親に対し、適切な情報提供と交流の機会を提供することができた。また、講座に参加者同士の話し合いを取り入れたことで、子育て中の父親、アラフォーママとそれぞれ自身と同じ

ような状況にある参加者同士が、子育ての悩みや自身の健康について共感し合いながら話し合い、「自分だけじゃない」と安心感をもつことができたと考える。実施会場・会場レイアウトについても、藤枝駅に近く十分な広さがあったため、子どもが遊べるスペースを設けることができた。そのため、子ども連れでの参加もしやすかったと考える。一方、特に子育てパパのおしゃべり交流会は、直前まで参加申込が少なく参加者募集に苦慮した。父親を主対象とした講座であっても、父親のみの参加でなく、夫婦・家族単位で参加しプログラム内で父親・母親に分かれるなど、父親が参加しやすい工夫が必要であると考える。アラフォーママの子育て&健康講座では、子ども課を通じて市内子育て支援センターにてチラシを配架いただいた。開催直前に子育て支援センターでチラシを見てぜひ参加したいと申込をしたという参加者もあり、効果的な広報ができたと考えるが、LINEや広報誌等での案内を望む意見もみられた。

以上より、父親、アラフォーママ等属性や年齢により対象者に配慮した交流機会の提供が、安心して子育てできる子ども・子育てに優しいまちづくりにつながると考える。さらに、親自身の健康に関する専門職による適切な情報提供も行うことで、市民が安全・安心に、いつまでも健やかに生活できる環境づくりもすることができる。引き続き、子育てをする親が安心して健やかに生活できるよう支援していく必要がある。

5 地域への提言

子ども・子育てに優しいまちづくりおよび市民が安全・安心に、いつまでも健やかに生活できる環境づくりの推進のためには、親となるひとや親子、家族が自分自身の心身の健康を維持し、子育ての仲間とのつながりをもちながら自信をもって子どもを育てていけるよう支援する必要がある。そのためには、同地区・同学年など子どもの年齢に合わせた交流機会だけでなく、父親、アラフォーママ等、親の属性に合わせた交流機会を設けることが効果的であると考えられる。

6 地域からの評価

本研究において企画・開催した2講座の参加者からは、「意味のある取組であり、多くの方が参加できるとよい」「子どもと少し離れ、他のママと悩みを共有してリフレッシュできた」「ぜひまた開催してほしい」等肯定的な評価を得ることができた。子どもや家族とともに安心して、気軽に参加できる講座を開催できたと考えられるが、ニーズをもつ対象者の目にとまるような情報発信を期待する声も聞かれた。